

意識障害患者におけるボディソニックによる筋緊張軽減効果

木沢記念病院 中部療護センター

○渡邊 香里、榎林 優、篠田 淳

【はじめに】脳外傷により異常筋緊張が出現しADL阻害因子となることが多い。今回我々は、体性感覚刺激によって異常筋緊張を改善できないかと考え、ボディソニックに着眼した。そこでボディソニックが筋緊張に及ぼす影響について検討したので報告する。【方法1】健常人と脳外傷による遷延性意識障害患者においてボディソニック前後の筋緊張の変化を測定した。筋緊張の測定として使用した機器は筋硬度計で、測定筋は大腿四頭筋、上腕二頭筋とし、ボディソニック前後に各3回測定した。【結果】健常人ではボディソニック前後において筋緊張に有意差を認めなかったが、脳外傷患者ではボディソニック施行後、筋緊張は有意に低下した。【方法2】次に一症例（脳挫傷、21歳男性）のみであるがボディソニック施行後の筋緊張の経時的変化を測定した。測定機器・測定筋は同様とし、午前11時から30分間ボディソニックを行い、午前9時から翌日の午前11時まで2時間毎の筋緊張を測定した。【結果】大腿四頭筋においては、ボディソニック施行後筋緊張が低下し、緩徐に亢進して翌日には施行前の筋緊張となっていた。上腕二頭筋においては、ボディソニック施行後筋緊張が低下し、緩徐に亢進したが施行前の筋緊張より低下していた。【考察・結語】脳外傷による遷延性意識障害患者に対しては、ボディソニックの体感音響振動が受容器から中枢神経系へと伝達し、筋緊張を引き起こすメカニズムに抑制的に働き効果器である筋の緊張が軽減したのではないかと考えられた。ボディソニックにより、筋緊張亢進が軽減した状態で徒手療法などを行うことは、より効果的で疼痛軽減、リスク面でも有用であると思われた。